

寄稿：ネアカのすすめ

世の中に「良い事ばかり」というものはないのと同様に、世の中に「悪い事ばかり」というものもまた決してない。これは、人の世にも、諸々の仕事の世界にも、技術の分野にも、また自然界にも広く共通する、単純にしてかつ重要な基本的真理なのである。例えば、一本の線路で沢山の情報を一度に送ろうとするとなるべく高い周波数の電流を流さなければならなくなるが、周波数が高くなると送ろうとする電氣的エネルギーが電波となって周囲の空間中に放射され、散逸してしまうという厄介な現象が起る。この、周波数が高くなるほど放射損失が増大



するという、電力や電気信号の伝送にとってはまことに不都合な現象も、逆にこれを積極的に利用すると放送や携帯電話などの無線通信に欠くことのできないアンテナとなる。また、アンテナから放射された電波は、大気や物質中を伝搬すると、今度は電波のエネルギーが物質に吸収されて熱エネルギーに変わり、電波は減衰してしまう。これは電波を遠方まで送ろうという目的にとってはやはり非常に具合の悪い現象であるが、逆に、この現象を積極的に利用すると、例えば電子レンジや癌の温熱療法などとして活用することができる。

このような例はまだ他にも沢山あるが、仕事や研究に行き詰まったり、思い通りにならないような事態に遭遇したとき、上に述べた真理を思い出し、視点をかえて見直せば、何事にも必ず逆の良い面があることに気が付き、思いもかけない利用・活用の道が見つかったり、新しい展望が開ける可能性がある。要するに、ネアカでなければ駄目だということである。実際、昔から立派な業績をあげた国内外の大学者や大技術者をみると、総じて楽道家が多い。

しかし、ネアカは常に健全なヒューマニズムに裏打ちされたものでなければならぬ。日本の生んだ偉大な哲学者西田幾多郎博士が友人の著書のために書かれた序文の中に「学問も事業も究極の目的は人情のためにするのである」という味わい深い言葉がある。この場合の「人情」というのは「人間愛」とか「ヒューマニズム」というような意味に解してよいのではないかと思う。研究者・技術者にとって何よりも大切な基本的要件は健全な人間性である。ゲーテも「良い仕事はよい人間にしか出来ない」という主旨のことを述べている。「健全なる研究は健全なる精神から生まれる」といってよいであろう。

理事・熊谷信昭
(科学技術会議議員
大阪大学名誉教授)